

※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

* 生徒の英語力を高めるために・・・*

～ 平成30年度「中学校英語研修」を実施しました ～

中学校英語の授業改善を進め、生徒の英語力を高めるために、各中学校第2学年の英語担当教員と希望者に対し、8月に県内4会場で「中学校英語研修」を実施しました。

【講師】文教大学 教授 阿野 幸一
株式会社ベネッセコーポレーション 江田 幸司

研修内容



1. 平成30年度全国学力・学習状況調査 [中学校の英語予備調査] 問題からわかること

予備調査問題の内容や形式などの概要を知り、今行っている授業で、学習指導要領に示されている力を生徒につけることができているかについて振り返りました。そして、足りない部分を埋めるために、どのような「聞く」「読む」「話す」「書く」の言語活動をしたらよいか、話し合いました。

2. Speaking 指導のあり方

Speaking 指導の改善のため、タブレットを使って、GTEC (スコア型英語4技能検定) の Speaking Test の体験をしました。参加者は、生徒が実際に受けることを想像しながら真剣に取り組みました。「いろいろなタイプの話す活動をしていくことが大切」「即興性も求められている」「普段から英語で話すことに慣れさせていく必要がある」など、これから授業においてどのようなスピーキング活動を行っていくかについて、意見交流をしました。また、生徒の話す力を正しく測るためには、「音声チェックの段階からしっかり声を出させるよう指導すること」「一斉にテストを開始すること」「与えられた時間を最大限使って話させること」などに留意する必要があることを学びました。

3. 英語で授業を行うこと

阿野教授の講義では、新学習指導要領に「授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする」と明記されたことから、「運動をしない体育の授業」「歌を歌わない音楽の授業」などの例をあげて、英語を使いながら身につけることの重要性について認識を深めました。また、「言語の使用場面を明確にした言語活動を行うことがいかに大切であるか」についても、具体例を伴った丁寧な解説がなされました。さらに、阿野教授による「英語で行う文法の導入」の模擬授業を参考に、「場面や文脈の中で捉えることを意識した、不定詞の導入」の指導案をペアで考え、グループで発表・協議を行いました。



中学校英語授業で大切にしたいポイント

- **英語授業の半分以上を英語で行う** <生徒の理解に応じた英語を使って>
生徒の言語活動を授業の中心に据え、先生自身が積極的に英語でコミュニケーションを！
- **パフォーマンステストを学期に1回以上** <指導と評価の一体化>
CAN-DO リストで明らかにした「つけたい力」を測りましょう。
特に「話す、書く力を測る」テストについては、学期に1回を目安に！
- **目的・場面・状況を明確にした言語活動** <言語活動の実際化>
生徒が「こういう場面で、こういう英語表現を使うといいんだな」と、具体的に理解できるように場面設定をして、英語で表現し、伝え合う力の育成を！

○各中学校代表で参加された先生方へ！

今回の学びを学校全体で共有し、CAN-DO リストに基づいた言語活動やパフォーマンステストを実施して、生徒の英語力を高めていきましょう。



参加者の声

- ・学調の予備調査問題を見ることで、学習指導要領でどんな力をつけることが求められているのかよくわかった。
- ・GTEC の体験をして、今後の指導について考えなければならないことがたくさんあるとわかった。Speaking 指導やパフォーマンステストに活かしていきたい。
- ・阿野先生の模擬授業は、目からうろこで素晴らしい内容だった。「英語で授業」のイメージを持つことができた。
- ・言語使用場面をもっとよく考えていきたい。場面設定の大切さを改めて感じた。
- ・技能を統合した活動や即興で話す活動を、もっと授業に取り入れていきたい。
- ・英語で授業をするために、自分自身の英語力を もっと向上させたい。



平成 30 年度授業実践研修 「わかる授業、魅力ある授業の実現」に向けた授業改善の取組



本年度の授業実践研修では、1,124 人の受講者（初任者研修は 407 人、6 年次研修は 440 人、中堅教諭等資質向上研修 I は 277 人）が、校種別・教科別に、126 班に分かれて研修を進めています。

● 小学校 ・国語…17 班 ・社会…2 班 ・算数…24 班 ・理科…2 班 ・生活…1 班 ・体育…3 班 ・特別の教科 道徳…3 班	● 中学校 ・国語…4 班 ・社会…4 班 ・数学…6 班 ・理科…5 班 ・保健体育…5 班 ・技術…1 班	● 高等学校 ・国語…2 班 ・社会…2 班 ・数学…4 班 ・英語…3 班 ・商業、情報…1 班 ・理科、農業…1 班 ・理科、水産…1 班 ・保健体育…3 班 ・工業…2 班	● 特別支援学校及び 小中学校特別支援学級担任班…13 班 ● 異校種合同班 (小学校・中学校)・英語…9 班 ・音楽…3 班 (小学校・中学校・高等学校)・図工、美術…2 班 ・家庭、看護、福祉班…1 班 ・家庭、福祉…2 班
------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

■ 授業実践研修の目標 ■

- ・子どもの学力向上をめざし、自らの授業改善と課題解決に向けて、主体的に研修に取り組む力をつけ、学校での自主的な研修への意欲につなげる。
- ・経験の異なる教員が研修班に分かれ、授業研究を通して、継続的な相互研鑽による授業改善を図るとともに、授業力の向上をめざす。

■ 研修方法 ■

- ・研修班は、約 10 名で構成し、相互研鑽による授業研究を実施する。
- ・教科によっては、異校種合同研修班となる。
- ・県教育委員会事務局研修担当の研修主事 1 名がチューターとしてつき、班の運営、研修の助言をする。
- ・年間 4 回実施し、班別の年間計画、研修班テーマに基づき、研修を行う。
- ・研修班テーマをもとに、課題と改善策を明確にし、授業改善へつなげる。



指導案添付法による事後協議

「三重県教員研修計画」では、授業実践研修における資質能力にかかる項目として「**教職を担うにあたり必要とされる専門性**」、求められる資質能力として、**授業力（授業計画、授業実践、授業改善）、学校組織運営力（チームワーク、人材育成）**としています。

● 授業実践研修 1 ●

① 講義「授業づくり」

- ・児童生徒のやる気を引き出させる「授業づくり」について
- ・児童生徒の学力、社会で生きていく力を向上させる授業方法等、具体的実践について
- ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善について（講師）

- 特別支援学校・小中特別支援学級担当
鈴鹿大学 こども教育学部 飯田 幸雄 先生
- 小学校
元松阪市立第一小学校長 木村 祐子 先生
- 中学校
県学力向上アドバイザー 西 繁 先生
- 高等学校
県立桑名西高等学校教諭 石田 正寿 先生
県立飯南高等学校教諭 多賀 秀徳 先生

② オリエンテーション

- 「今後の授業実践研修について」
※授業改善の一つとして、「実効性のある『めあての提示』『振り返る活動』の確実な実施」「学-Viva セット（ワークシート）、授業改善サイクル支援ネットの活用」について説明しました。

- ・めあての設定の仕方や、提示するタイミングについて、振り返ることができました。
- ・発問の仕方やめあての提示など、具体的で、即実践ができる内容が大変勉強になりました。
- ・生徒が主体的で、対話的な活動や思考することができ授業をつくるが必要であると思いました。
- ・授業の中で、めあてを提示し、見通しを持たせることが重要であると思いました。子どもたちの成長を日々考えながら、授業実践に取り組んでいきたい。

受講者の声



● 授業実践研修 2 ●

研修班別研修

- ① 自己紹介 ② ビデオ授業公開（初任研 1 名）
- ③ 実践報告（初任研 1 名）
- ④ 研修班テーマの決定
- ⑤ 活動計画案の作成、授業者、研修実施日（授業公開日）の検討等
- ⑥ まとめ、アンケート記入



受講者の声

- ・めあての工夫は、生徒たちのやる気を持たせることにつながると感じました。中堅 I の先生方の姿から学べることが多かったです。初任の先生方の熱意に触れて自分も 9 月からまた頑張ろうと思いました。
- ・めあてと振り返りのつながりを見直すことの必要性を感じました。ぜひ今後の授業づくりに活用したいです。
- ・様々な学校で、多くの経験を積まれた先生方の話は、とても貴重な時間となりました。自分にはなかった視点を聞き、授業をつくる上で、とても参考になりました。

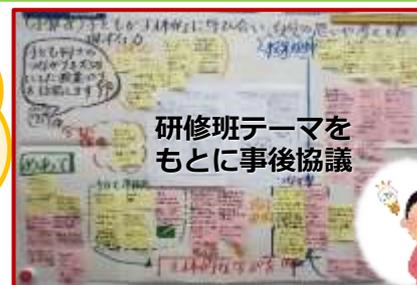
● 授業実践研修 3・4 ●

研修班別研修

- ① 授業公開、事後協議（6 年研、中堅研 I）
 - ② ビデオ授業公開、事後協議（6 年研、中堅研 I）
 - ③ 実践報告、課題検討（初任研）
 - ④ 講師による助言（希望班のみ）
 - ⑤ まとめ、アンケート記入
- ※ 3、4 いずれかで授業公開校にて研修をします。



関係する教科・単元では、「わかる・できる育成カリキュラム」「学 Viva セット（ワークシート）」を活用しながら授業力向上を図っています。



研修班テーマをもとに事後協議



★授業実践研修は、平成 22 年度から始まり、のべ受講者が約 8,600 名となりました。「受講者皆さんの学び（異経験年次による研修、指導案添付法・3 + 1 法での事後協議等）」を、日々の実践や校内研修の中でぜひご活用ください。

学校・家庭・地域が
ともに！

みえの親スマイルワーク で 聞く・話す そして、つながりましょう！

子どもも大人も
みんなが笑顔！



子どもは、一人ひとりかけがえのない存在であり、その豊かな成長は、親をはじめ、地域や社会全体の願いです。また、家庭は、子どもの豊かな育ちの基盤として、子どもの人格を形成する上で重要な役割を担っています。

「みえの親スマイルワーク」は、出産前を含め、乳幼児から小学生までの子どもを持つ保護者を対象に、子育ての意義や喜び、家庭の大切さ、子どもとの接し方、しつけ、習慣づくりなどのテーマについて、話し合いやワークを通して交流し、子育てや家庭教育について気づき学んでいく参加型のプログラムです。参加者同士が自分の子育てを振り返り、悩みを語り合うことで、思いを共感したり、家庭教育について考えたりするきっかけにすることもねらいとしています。



**生活(学習)習慣の
確立が子どもの
能力を育みます。**

★実施主体 三重県 PTA 連合会・三重県 PTA 安全互助会・三重県・三重県教育委員会

つなぎびと

●ワークの進行を担うのがスマイルリーダーです。

三重県 PTA 連合会、三重県 PTA 安全互助会と、三重県、三重県教育委員会が連携し、スマイルリーダーを養成しています。

夏休み中にリーダー養成研修を実施し、今年度と昨年度を合わせて、96名のリーダーが誕生しています。

★活用の場

- PTA 研修会 (幼稚園・認定子ども園・保育所、学校)
- 保護者会 ●学級懇談会
- 入学説明会 ●就学時健診 等

★ワークの内容

- 入門編 ●出産前編 ●乳児編 (0歳～2歳)
 - 幼児編 (2歳～5歳) ●小学生編
- ※区分については、あくまでも目安で、どこからでも使っていただけます。

★ワークのテーマ (短時間で実施可能です)

- ☆宿題ちゃんとしているとおもっていたのに (※下記参照)
- ☆どうしたら本を読むようになるのかな
- ☆子どもがスマホを持ちたいと言っているんだけど
- ☆うちのルール、どうしている？ 等

みえの親スマイルワークを活用して、
ワークショップをしてみませんか！

- みえの親スマイルワーク 小学校編 2 宿題ちゃんとしているとおもっていたのに」より
- ◎ワークシートは、基本的に「参加者シート」「資料シート」「進行役シート」の3種類に分かれています。

◆参加者シート

◆資料シート

◆進行役シート

生活(学習)習慣を振り返るきっかけに！

資料シート

小学校編 テーマ2 宿題ちゃんとしているとおもっていたのに…

家で、自分で計画を立てて勉強していますか

科目	している	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない
国語A	80%	15%	5%	0%
国語B	75%	20%	5%	0%
算数A	85%	10%	5%	0%
算数B	70%	25%	0%	0%

家で、学校の宿題をしていますか

科目	している	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない
国語A	65%	30%	5%	0%
国語B	60%	35%	5%	0%
算数A	70%	25%	5%	0%
算数B	55%	40%	5%	0%

全国学力・学習状況調査の結果の分析から、家庭での過ごし方については、家庭における生活習慣・学習習慣・読書習慣の一層の確立が必要です。そのためには、学校、家庭、地域の多くの大人が関わるのが重要です。その1つとして、「みえの親スマイルワーク」を活用ください。

上記のグラフは、家庭での学習習慣と学力との関連を表しています。家で「計画を立てて学習している」「宿題をしている」「予習をしている」「復習をしている」と回答した児童ほど、国語A、国語B、算数A、算数Bの全教科で、平均正答率が高い傾向にあります。

○スマイルワークを活用した研修が、県内の小学校を会場として開催予定されるなど、地域と学校をつなげる活動として広がっています。

★「ワークシート」は、ダウンロードできます。

三重県 スマイルワーク

お問合せ：三重県教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課 社会教育班 電話 059-224-3322

【事例32】紀北町立上里小学校 ～ICTを活用した取組～

日常的なICTの活用で子どもたちの理解力向上！

日常的にICTを活用し、子どもたちが学習内容をより深く理解できるよう、昨年度から授業改善に取り組んでいます。そのため、どの教科(単元)で活用すればより効果的なのか、常に検証しながら実践を進めています。

大型モニタ・書画カメラの活用！

2年生の算数科「かけ算」では、計算のしかたなど、自分の考えが書かれたノートや、並べたおはじきなどを、そのまま大型モニタに映し出して説明することができるので、授業をより効果的・効率的に進めることができました。それにより、自分の考えを説明したり、互いの考え方を比べたりする時間をとることができるため、相手に分かりやすく話す力が身についてきました。また、自分の考えに自信を持って話す子どもたちも増えてきました。



タブレットの活用でわかる授業を！

5年生の社会科では、自動車の生産の様子など、実際に見学したり説明を聞いたりしないと理解が難しい内容も、タブレットを活用することにより、自分たちが知りたいところを随時調べたり、繰り返して学ぶことができました。その結果、調べ学習や単元のテスト等では、必要な資料を選んでまとめたり、関連する資料を的確に選んで答えたりすることができるようになりました。3・4年生の理科では、写真を大型モニタに拡大して映すことにより、昆虫の体のつくりなどを細かな部分まで観察し、一人ひとりの気づきを交流しています。それにより理解が深まるとともに、生き物に対する興味・関心が高まりました。

プログラミングで論理的思考を！

3年生から6年生では、プログラミング教育に取り組んでいます。3・4年生は「スクラッチ」を活用して、意図したようにキャラクターを動かすことで、楽しみながら子どもたちの発想力を引き出しています。5・6年生で取り組んでいる「レゴ マインドストーム」では「自分の思い通りに動かすためにはどうしたらいいのか」「動かないのは何が原因なのか」と試行錯誤しながら考えることで、子どもたちの論理的思考を身につける活動を行っています。



「Think!Think!」で考える楽しさと達成する喜びを！

「Think!Think!」の活用で大切にしていること

〈継続的な取組で考える力を育てる〉

低学年から系統的・継続的に取り組むことで、空間を認識する力や論理的に考える力などを育てる。

〈目標を持って取り組ませ、意欲や自主性を育てる〉

より高いレベルに挑戦させ、達成感を味わわせることで、意欲や自主性を育てる。

〈個別指導に生かす〉

一人ひとりの得意・苦手分野を分析し、個別指導につなげる。

子どもたちの姿

- 子どもたちが主体的・意欲的に取り組む姿が見られ、論理的に考えたり、試行錯誤したりして、課題を解決する体験を楽しみながら積み重ねることができている。
- 立体の展開図の問題に親しむことで、頭の中で展開図を組み立てる力が付いてきている。
- 工夫して考えることの楽しさ・成功体験を味わうことができている。

「Think!Think!」アンケートより

- ・遊びがいっぱいあるところが楽しい。
- ・勉強にもなるし、面白い。
- ・点数が高いときやA(ランク)になるとうれしい。
- ・シンクシンクとよく似た問題が出てきて役に立った。



●「Think!Think!」とは●

「Think!Think!」の問題には、「空間認識」「平面図形」「試行錯誤」「論理」「数的思考」の5分野があります。

三重県が民間企業と連携し提供しているEB教材で、本年度は県内小学校17校で取組が進められています。



●●● 紀北町立上里小学校長からのコメント ●●●

本校では、大型モニタ、書画カメラ、タブレットを活用した授業を行っています。最初は、これらの機器をどのように活用するのか、手さぐりの中で取組を進めてきました。校内で研究を重ね、実際、図形の作図や観察でのタブレットの使用や、モニタやカメラの使い方を工夫してきました。それにより、意欲的に自分の考えを相手に伝えようとしたり、興味・関心を持ったことを調べようとしたりする子どもたちの姿が見られるようになりました。今後も、教職員は、教科との関連性を図りながら系統的・継続的に取り組んでいこうと考えています。

また、「Think!Think!」の取組も確実に定着してきています。このようにICTを活用した取組により、学力向上につながるができるよう、実践をさらに深めていきたいと思えます。